

AIと「2045年問題」

著者	中村 義実
雑誌名	新潟日報 上越かわらばん
巻	1980
ページ	2-2
発行年	2017-03-05
URL	http://hdl.handle.net/10631/00001380

命も相当延びるでしょう。間違はなく便利を提供う。一見、人類の未来は明るく映ります。しかし、光と闇は背中を断できません。Iの未来は誰にも見えませんが、Iの未来は誰にも見えません。ひとまず判断を留保して、情報を集め、他者の意見を聞き、自身で思索を続けながら、柔軟に向き合っていく姿勢が求められます。

「2045年問題」という言葉をご存じでしょうか。

AI（人工知能）がそのまま発達し

続けると、全人類の知能の総

量を越え、以降、コンピュータの行く末を人間が予知できなくなる。

2045年にその「特異点」を迎えるというのです。

これが私たちにどう厄になるのか、知る人はいません。

車の運転がすべて自動になる日もそう遠くなさそうです。医療の世界でも、患者のデータや格差の問題を解決でき

たとしても、患者のデータや格差の問題を解決でき

AIと「2045年問題」

から病名や治療法が一瞬に示される未来像が目浮かびます。これら

これらの発展を担う

ひよっとすると、映画

です。交通事故は減り、一定の会話をこなしつ

中村 義実

一方、AIに攻撃

「2045年問題」

医学は進歩し、人間の寿命ある時代です。AIは世界がもはやSFとは言